

MITSUOKA

MC-1
取扱説明書

運転される前に必ず、
取扱説明書をご一読ください。

別冊の整備手帳を合わせてご参照下さい。

このたびは、マイクロカー“MC-1”“K-1”(以下全て“MC-1”で表記させていただきます)をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、車の正しい取扱い方法と、日常点検、定期点検、簡単な点検と整備について説明しております。

車について十分ご存じの方も、MC-1独自の取扱いがありますのでよくお読みいただき、いつまでも安全、快適にご使用していただく為に、車の手引きとしてお手元においてご利用下さい。

なお、ご使用中にお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または、(株)光岡自動車までお気軽にご相談下さい。

MC-1が、皆様1人1人の人生を豊かにするお手伝いができれば幸いです。

(株)光岡自動車・開発部スタッフ一同

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

「安全に関する表示」「安全・カーライフのために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★保証に関することや、点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載してあります。

★ミツオカ販売店で取り付けられた装備品などにつきましては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。

★車の仕様の変更により、この本の内容やイラストとお車が一致しないことがあります。あらかじめ、ご了承ください。

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。この車の運転に必要な免許は、普通自動車です。

★この車の乗車定員は、運転者のみの1人です。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



アドバイス

お車のために守っていただきたいこと



知識

知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

安全・快適カーライフのために	1
各部の名称	8
インストルメントパネルの名称	9
メーターと警告灯のみかた	10
スイッチの使いかた	11
シフトノブの取扱い	13
ガソリンの補給	14
エンジンオイルの補給	15
正しい運転操作	16
エンジン始動方法 運転方法	19
寒冷地での取扱い	23
お願い 安全にメンテナンスを行うために	25
日常点検と定期点検について 日常点検	27
定期点検	34
その他点検 ボディのお手入れ	40
洗車／住みやすい環境の為に… フレーム号機	41
メンテナンスノート	42
サービスデータ	43

安全・快適カーライフのために

日常点検は必ず実施する

- ・お車を安全にお使いいただくため、日常点検は必ず行ってください。適切な時期に実施することが法律で義務づけられています。（詳しくはメンテナンスノートをお読みください。）



車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしない

- ・車庫や屋内など換気が悪い所では、排気ガスが充満しやすいためエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスには無色無臭で有害な一酸化炭素が含まれていますので、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



シートベルトは正しく着用

- ・シートベルトは不適正に着用するとベルトの効果が十分発揮できなったり、ベルトによりケガをするおそれがあります。正しい着座姿勢で正しく着用してください。（詳しくは17・18ページをお読みください。）



正しい運転姿勢に調節

- ・走行前にシート、ハンドルの位置が正しい運転姿勢がとれるように調節し、バックミラー後方視界が十分確認できる位置に調節してください。

眠けをもよおすような薬を飲んだときは運転しない

- ・カゼ薬など眠けをもよおす薬を飲んだときの運転は避けてください。

運転席足元には物を置かない

- ・足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。
- ・ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまったりすると、ペダルの操作ができなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



タイヤ空気圧はときどき点検する

- ・タイヤ空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど思わぬ事故につながるおそれがありますのでタイヤ空気圧はときどき点検してください。
(詳しくは33ページをお読みください。)



手荷物は積みすぎない

- ・大きい荷物、重い荷物を積んだり、荷物を重ねて積まないでください。急ブレーキなどのとき荷物が落ちてきたりして危険です。



車を後退させるときは周囲に注意

- ・バックミラーでは確認できない死角があります。車からおりて後方の人や障害物を確認してください。

長い下り坂ではエンジンブレーキを併用

- ・ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあり危険です。
ⓐに入れたまま、エンジンブレーキとフットブレーキを併用して安全な速度で走行してください。



雨天の走行は速度を落とす

- ・路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけてください。
- ・わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になりハンドルやブレーキがきかなくなり危険です。スピードを落ととして走行してください。特に摩耗したタイヤはハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。



- ・冠水路など深い水たまりは走行しないでください。水によりエンジン破損など車両故障につながるおそれがあります。

水たまり走行後はブレーキの効きを確認

- ・水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。
- ・効きが悪いときは、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏み続け、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。



すべりやすい路面を走行するときは慎重に

- ・ぬれた路面や凍結路、積雪路などではスピードを落としてください。
- ・急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンプレーキはさけてください。タイヤがスリップしやすく思わぬ事故につながる場合があります。



ペダルの位置を確認

- ・ペダルの踏みまちがいは思わぬ事故につながります。エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。
- ・アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。



アクセルペダルはゆっくり踏む

- ・アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

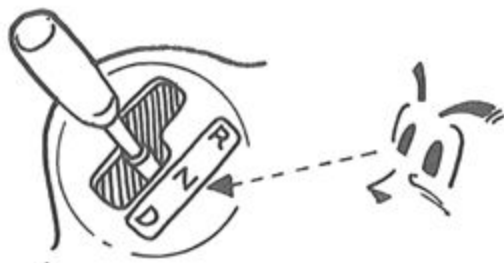


セレクトレバーの操作は正しく確実に

- ・切換えは必ず停止時にゆっくり操作してください。
- ・アイドル回転の高い時、空吹かした時はシフト操作しないでください。
- ・後退したときは、すぐ[R]から[N]に戻す習慣をつけてください。
- ・ギア切換えがスムーズにいかない場合は、サイドブレーキ、フットブレーキを解除してから操作してください。

セレクトレバー位置は目で確認

- ・エンジンをかけるときは[N]、前進するときは[D]（後退は[R]）の位置にあることを目で確認してください。



走行中は[N]にしない

- ・走行中にセレクトレバーを[N]にすると、エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故が発生するおそれがあり危険です。また、トランスアクスルの故障の原因となります。

無用な空吹かしはしない

- ・万一セレクトレバーが[D]、[R]に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

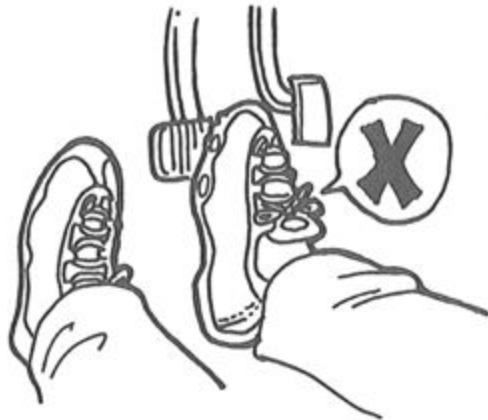
横風が強いときは

- ・横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握ってスピードを徐々に落としてください。
- ・トンネルの出口、橋の上、切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。



ペダルに足をのせたままにしない

- ・ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。



走行中に異常があったら

- ・警告灯が点灯したらただちに安全な場所に停車し適切な処置をしてください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
(詳しくは10ページをお読みください。)
- ・走行中タイヤがパンクやバースト(破裂)したら、あわてずハンドルをしっかり握ってスピードを徐々に落とし、安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドルを行わないでください。車両がコントロールできなくなるおそれがあり危険です。
- ・床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、車体下部の各部に損傷がないか確認してください。損傷がある場合は販売店に連絡してください。



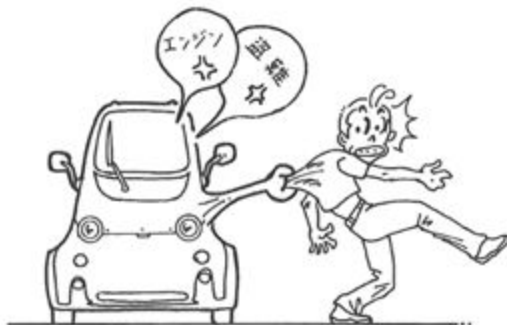
燃えやすいものの上や近くに車を止めない

- ・ 枯れ草、紙、木材、油など燃えやすいものの上や近くには駐停車しないでください。排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- ・ 車両後方に木材、ベニヤ板などの可燃物があるときは、車両後端から十分に距離をとって駐車してください。すきまが少ないと、排気ガスにより変色や着火するおそれがあります。



車から離れるときは必ずエンジンを止めパーキングブレーキを確実にかける

- ・ 車両の発進や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。



坂道駐車はパーキングブレーキを確実に

- ・ 無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。パーキングブレーキを確実にかけてください。
- ・ タイヤに輪止めをすると効果があります。



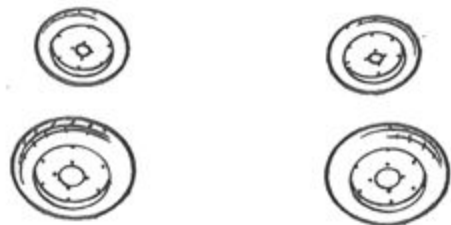
2人乗りはできません

- ・ この車両は1人乗りです。2人乗りはできませんので、ご注意ください。



タイヤは4輪とも指定サイズで同一のものを

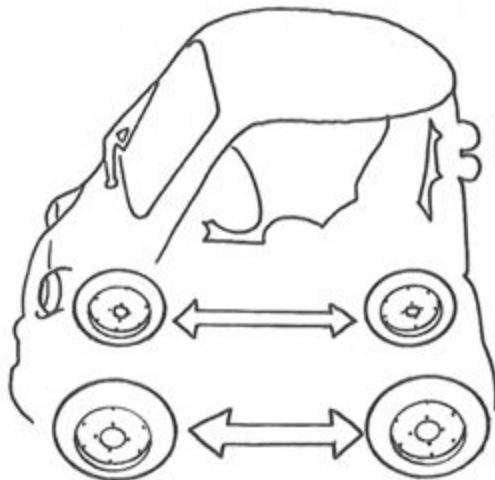
- ・タイヤは4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン(溝模様)のものを装着してください。タイヤの交換は4輪とも同時に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン(溝模様)のタイヤを装着してください。摩耗差が大きかったりサイズが異なるタイヤを装着すると、車の機構に無理がかかり重大な故障の原因になります。



4輪とも同じタイヤ

タイヤは定期的に位置交換を

- ・タイヤ間に摩耗差があったり空気圧が規定値より著しく異なると、車の性能が十分発揮できなくなり、安全性を損ねたり故障の原因になります。
- ・タイヤの位置交換は約5000km走行ごとに定期的に行い、空気圧はこまめに点検してください。



違法改造は絶対にしない

- ・車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。

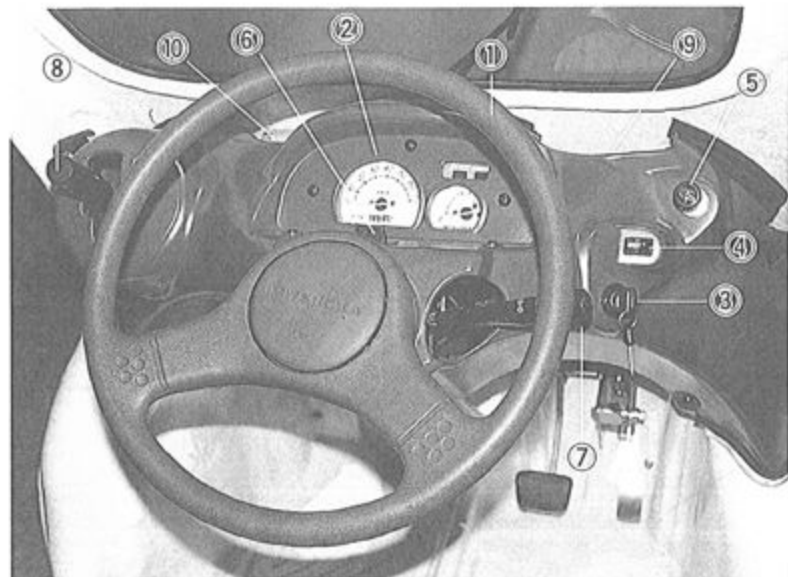


各部の名称



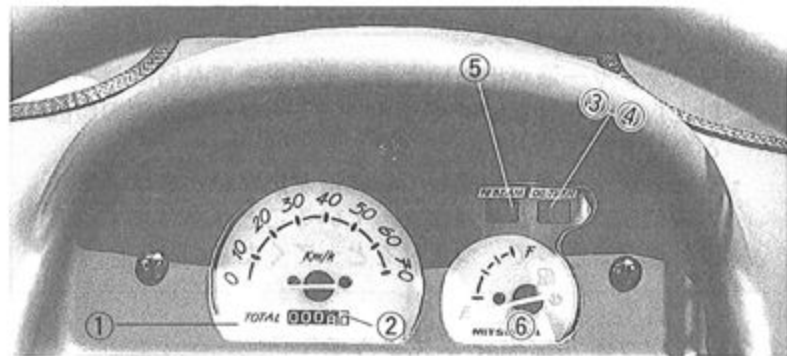
- ① インストルメントパネル
- ② ガソリタンク給油口
- ③ オイルタンク給油口
- ④ サイドブレーキ
- ⑤ シートベルト

インストルメントパネルの名称



- ①ハンドル
- ②コンビネーションメーター
- ③イグニッションスイッチ
- ④スターターボタン
- ⑤ワイパー/ウォッシャースイッチ
- ⑥ハザードスイッチ
- ⑦ターンシグナル/ディマスイッチ
- ⑧シフトノブ
- ⑨ブレーキ液補給口
- ⑩ウォッシャー液補給口

メーターと警告灯のみかた



①スピードメーター（速度計）

車の速度をkm/hで表示します。

②オドメーター（総積算距離計）

走行した総距離を表示します。

③ターンシグナルパイロットランプ（方向指示灯）

ターンシグナル/デイマスイッチレバーを操作しターンシグナルランプが作動すると点滅します。

④オイル警告灯

エンジンオイルの残量を示します。このランプがエンジン始動中や走行中に点灯したら、直ちに2サイクル車用（JASO M345 規格 FC級）をオイルタンクへ補給してください。

👉 アドバイス

オイルは切らさないでください。オイル残量警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。

⑤ハイビームインジケータランプ

ヘッドランプが上向き照射のとき点灯します。

⑥フェーエルメーター（燃料計）

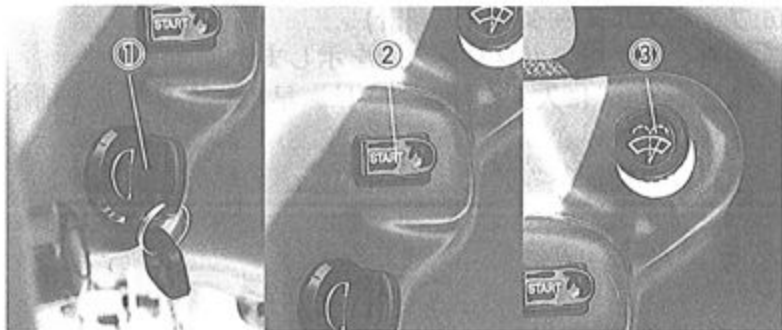
燃料タンク内のガソリンの量を示します。

指針が“E”に入りかけたときは、早めにガソリンを補給してください。

燃料計の指針が“E”に入りかけたときの燃料有効残量：

約 1 ℓ

スイッチの使いかた



- ①イグニッションスイッチ (図中の①)
OFF……キーを抜き差しできる。
ON……エンジンが始動できる。
- ②スターターボタン (図中の②)
エンジンを始動するときに使用します。
(詳しくは19ページをお読みください。)
- ③ウォッシャー/ワイパースイッチ (図中の③)
右へ回すとウォッシャー液が出ます。
引くとワイパが作動します。

⚠注意

- 寒冷時はウォッシャー液を外気温と合わせた希釈割合にしてください。ウインドーガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

👉アドバイス

- ウォッシャー液が出ないとき、そのまま長時間(30秒以上)作動させないでください。モーターの故障の原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても、液が出ないときはノズルの穴にワックスなどがつまっていることがあります。穴に針などをさして、つまりをとってください。

◆ターンシグナル/ディマスイッチ



ターンシグナル/ディマスイッチ

- ターンシグナルはエンジンが始動しているときに作動します。レバーを上へ動かすと左側ターンシグナルが、またレバーを中央より下へ動かすと右側ターンシグナルが点滅します。

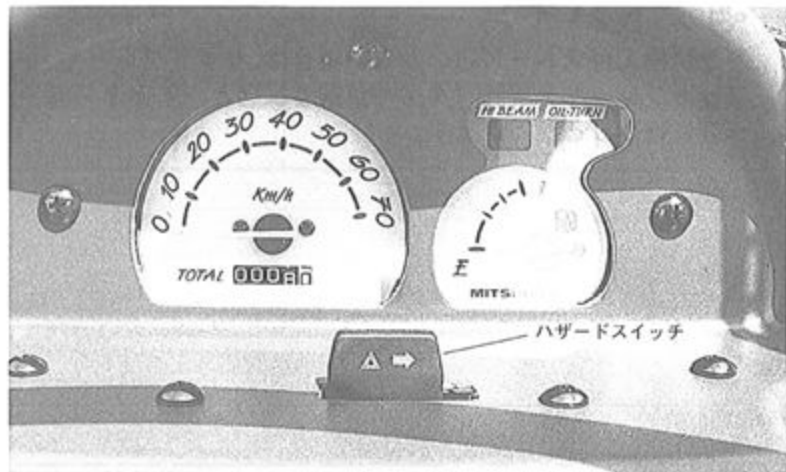
●ディマ（ヘッドランプ切換）は、エンジン始動中のときのみヘッドランプの切り換えができます。

レバーを手前に引き上げるとヘッドランプが切り換わり、もう一度レバーを引き上げると元に戻ります。

👉 アドバイス

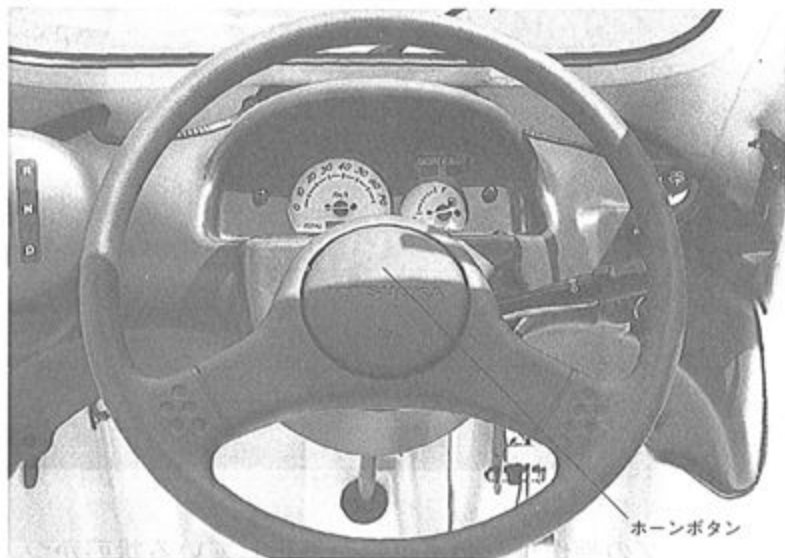
ヘッドランプ、テールランプはエンジン始動と同時に自動的に常時点灯します。

◆ハザードスイッチ（非常点滅灯）



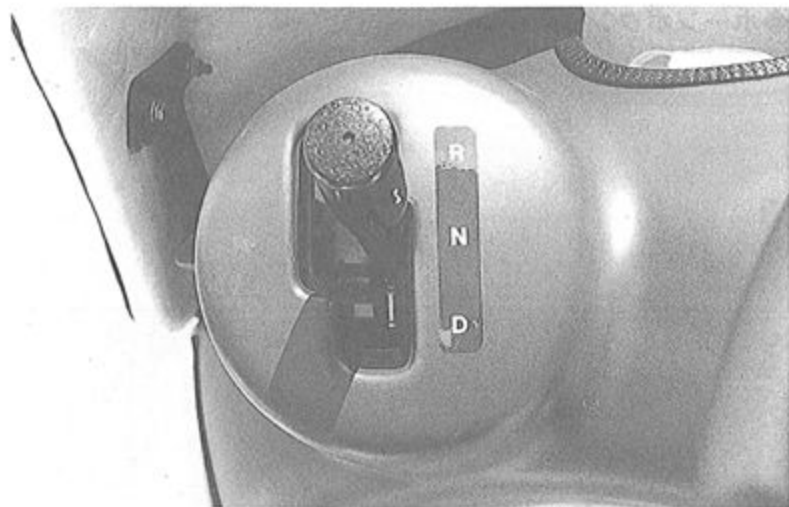
エンジン始動中に作動します。やむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。スイッチを右に動かすと全ての方向指示器が点滅します。止めるときは、スイッチを左に戻します。

◆ホーンボタン



ホーンボタンを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

シフトノブの取扱い



シフトノブの操作は、必ず車輦が停止している状態かつ、アイドリングが安定している状態でゆっくりと行います。

N……ニュートラル

エンジンを始動するときのノブの位置です。エンジン始動時は必ずパーキングブレーキを引き、シフトノブを“N”にセットしてください。

D……ドライブ（前進）

エンジン始動後にノブを“D”に入れてアクセルペダルを踏むと車輦が前進します。

R……リバース（後進）

エンジン始動後にノブを“R”に入れてアクセルペダルを踏むと車輦が後進（バック）します。

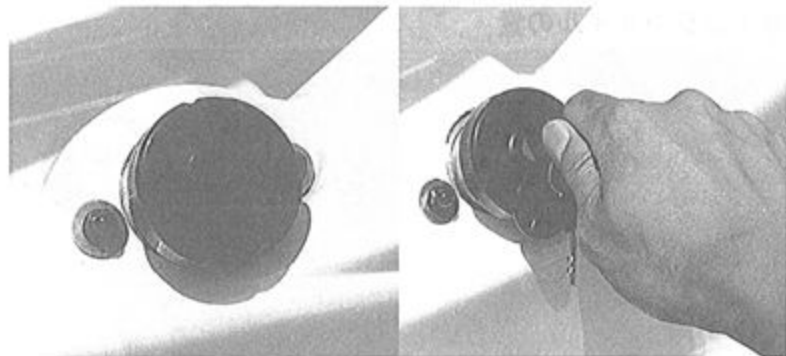
⚠ 注意

- ・次のような操作は、トランスアクスルを破損するおそれがありますので、絶対にしないでください。
 - ・車が完全に停止する前に**D**、**R**に入れる。
 - ・車を前進させているときに**N**、**R**に入れる。
 - ・車を後退させているときに**N**、**D**に入れる。
 - ・アイドリングが安定する前に**D**、**R**に入れる。

👉 アドバイス

ギヤ切り換えがスムーズにいかない場合は、サイドブレーキ、フットブレーキを解除（タイヤが回る状態と）するとスムーズに行うことができます。

ガソリンの補給



フューエルタンクキャップにキーを差し、キーを右へ回すとロックが外れ、フューエルタンクキャップは、左へ回すとはずれます。

ロックするときは、外すときと逆の順序で行います。

燃料は、無鉛ガソリンを使用してください。

⚠ 警告

- ・燃料を補給するときは必ずエンジンを止めてください。
 - ・たばこなど一切の火気は厳禁です。近づけないでください。
- 燃料は引火しやすく火災になるおそれがあります。

⚠ 注意

- ・キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

エンジンオイルの補給

〈使用オイル〉

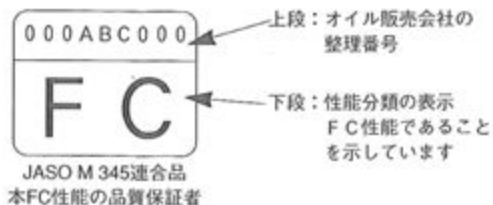
2サイクル車用（JASO M 345 規格 FC級）を使用してください。

👉 アドバイス

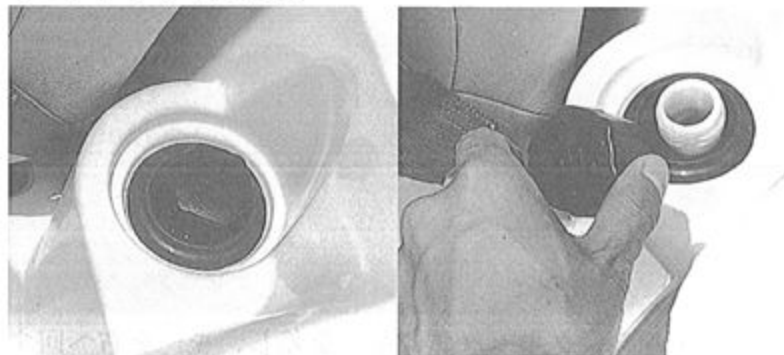
- ・銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

📖 知識

- ・JASO M 345規格とは、2サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



◆エンジンオイルの量



エンジンが始動している状態で、エンジンオイルパイロットランプが点灯したら、オイルを補給してください。セルモータを回している時には、このランプが点灯するのが正常です。

万一点灯しない場合には球切れが考えられますのでお買い上げ店または(株)光岡自動車直営店へご連絡ください。

⚠️ 注意

- ★作業は平坦な場所で行ってください。
- ★補給するときは、オイルフィラからごみなどが入らないようにしてください。
- ★オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。
- ★オイル補給の際、補給口の筒部分までは入れないでください。もれることがあります。

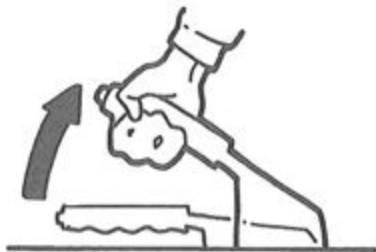
正しい運転操作

◆始動する前に

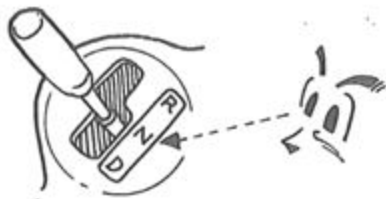
次のことを確認してください。

- ・日常点検はすみしましたか。  P28

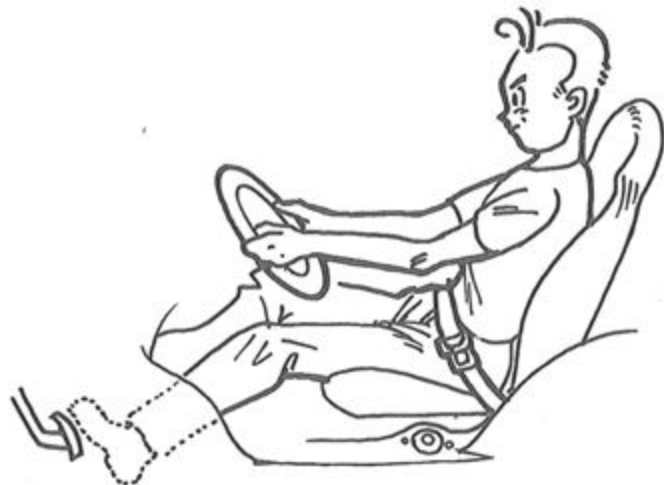
- ・パーキングブレーキは完全にかかっていますか。



- ・セレクタレバーはNの位置になっていますか。



- ◆正しい運転姿勢がとれるようシート位置を調節してください。

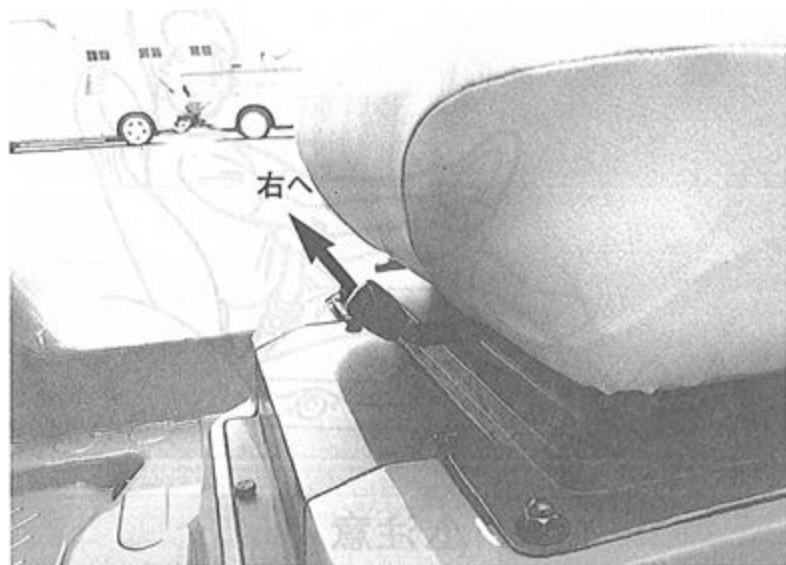


⚠ 注意

- ・シートの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に行くと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・調節しているときは、動いている部分に手、足などを近づけないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。
- ・背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●前後位置調節

- ・レバーを引いたまま、シートを前後に動かします。
- ・レバーから手を離れたところで固定します。



⚠注意

- ・調節した後は、シートを前後にゆさぶり固定されていることを確認してください。
- ・固定されていないと、走行中にシートが突然動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

◆シートベルトの正しい装着

- ・走行する前に必ずシートベルトを着用してください。
- ・シートベルトを着用するときは正しい姿勢で正しく着用してください。
- ・不適正に着用するとシートベルトの効果が十分発揮できなったり、ベルトによりケガなどをするおそれがあります。
- ・次の使用方法、警告にしたがって正しく着用してください。

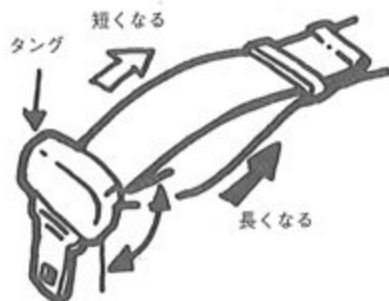


⚠警告

- ・万一の事故時の傷害軽減、急ブレーキ時などのケガを避けるために、以下のことを守ってください。
- ・正しい運転姿勢で着用してください。
- ・ベルトはねじれた状態で着用しないでください。万一のときに衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けてケガをするおそれがあります。

●長さ調節のしかた

タングを立て、ベルトを必要な長さにします。
上側を引くとベルトが短くなり、下側を引くと長くなります。



⚠警告

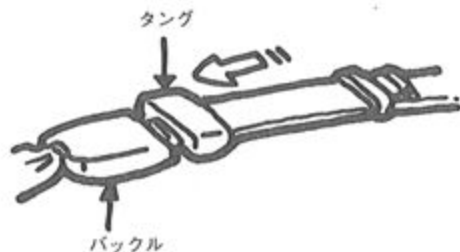
・ベルトが腰骨の部分に密着するように、ベルトの長さを調節してください。たるませたり、腹部にかけると万一のとき、シートベルトの効果が得られず、重大な傷害につながるおそれがあります。

📖知識

・最初長めに調節しタングをバックルに差し込んだ後、長さ調節をすると腰骨に密着させやすいです。

●着用のしかた

ベルトがねじれないようにタングを持ってバックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



⚠警告

・ベルトはねじれた状態で着用しないでください。万一のときに衝撃力が集中して危険です。

●外し方

・バックルのボタンを押して外します。



◆エンジンの始動

- ①パーキングブレーキが完全にかかっているかどうか確認します。

完全にかかっていない時は、完全にかかるまでパーキングブレーキを引き上げます。

- ②セレクトレバーが[N]の位置にあるかどうか確認します。必ず[N]（ニュートラル）の位置にしてください。

- ③キーをONにして、ブレーキペダルを踏み込んだままスタートボタンを押します。

（ブレーキペダルを踏まないでエンジンが始動しません。）
エンジンが始動したらボタンから手をはなしてください。

- ④始動後、エンジンが暖まると自然にエンジン回転が下がってアイドリングの状態になります。

それまではアクセルペダルを踏まないでください。

- エンジン始動直後の回転数が高い場合は下がるまでギヤチェンジは行わないでください。

エンジン回転数が安定してからでもギヤが入りづらい時は、一度、サイドブレーキ、フットブレーキを解除してからシフトチェンジを行ってください。

◆発進と走行

- セレクトレバー[N]でエンジンを始動して、ブレーキペダルを踏んだまま、[D]へ入れます。

ブレーキペダルから足を離し、パーキングブレーキを戻しながらアクセルペダルを踏み込むと発進、走行ができます。

- あとはアクセルペダルの踏み加減とブレーキペダルによりスピードを調整してください。

⚠警告

停車中エンジンをかけ、セレクトレバーを動かすときは、必ずブレーキペダルをしっかりと踏んでください。急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- 次のような操作は、トランスアクスルを破損するおそれがありますので、絶対にしないでください。

- ・車が完全に停止する前に[D]、[R]に入れる。
- ・車を前進させているときに[N]、[R]に入れる。
- ・車を後退させているときに[N]、[D]に入れる。

- エンジン回転が高いままで発進すると車が急にとび出して危険です。

暖気運転が終わってアイドリング回転に戻ってから発進してください。

- 長い下り坂を[N]で走行しないでください。

⚠注意

- ・上り坂でアクセルペダルを踏んだままで停止状態を保つことはしないでください。クラッチ、及びトランスアクスルが故障する原因となります。
- ・停車中の空吹かしはしないでください。
万一、**[D]**、**[R]**に入っていると、急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・停車後の再発進は、セレクトレバーの位置を目で確認してください。
- ・セレクトレバーを**[D]**あるいは**[R]**の状態ブレーキをかけたままエンジン回転を上げると故障の原因となります。

◆エンジンの止め方、駐車のしかた

- ①アクセルペダルから足を離し、エンジン回転を下げ、ブレーキをかけて車を停止させます。
- ②ブレーキペダルを踏みパーキングブレーキを引きセレクトレバーを**[N]**にします。
- ③次にイグニションスイッチキーをOFFの位置に回わしてエンジンを止めます。

⚠注意

- ・**[N]**に入れるときは、車が完全に止まってから入れてください。
止まる前に入れると、トランスアクスルを破損するおそれがあります。
- ・車から離れるときは、必ずエンジンを止め**[N]**に入れてパーキングブレーキを引いてください。

◆制動（ブレーキ）

- 不必要な急ブレーキは避けましょう。

◆ならし運転（約500km）

- ならし運転とは、新車時にゆっくり運転することによって新しい部品をお互いになじみ合わせることです。
- 部品のなじみは車の寿命に大きく影響します。
ならし運転期間は絶対に無理な運転は避けましょう。

◆雨の日の走行

普段より早めにブレーキペダルを踏みましょう。

雨の日は、見通しが悪く、そのうえ路面もスリップしやすくなっています。特に磨耗したタイヤでは、速度を落とす注意して走行しましょう。



◆水たまりを走るとき

前の車が通過する状態をよくみて、交通状況に十分注意し、ゆっくりと波を立てず、なるべく浅い所を選んで走りましょう。

走行できる水の深さは、マフラーのテールパイプ（排気ガスの出口）の下までが限度です。絶対にエンジンは止めずに多少ふかしながら走りましょう。

ブレーキドラム内に水が入ると、ブレーキがきかなくなり危険です。こんな時は、道路の左側により、低速でブレーキペダルを軽く踏んで走るとブレーキによる熱で乾き、正常になります。

しかし乾くまでの間は非常に危険です。十分に気をつけてください。



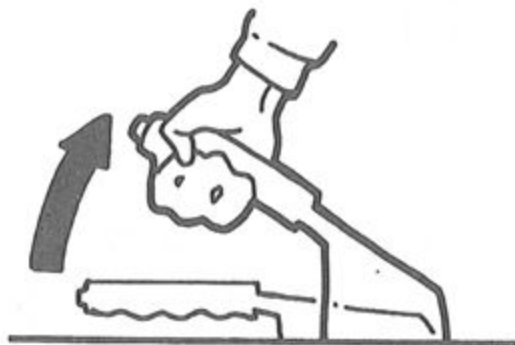
◆下り坂を走るとき

④に入れたまま、エンジンブレーキとフットブレーキを併用して安全な速度で走行してください。



◆パーキングブレーキ

- 駐車時または、坂道発進時にレバーを一杯に引いて使用します。
- もどすときは、レバーを少し引き上げ、先端のノブを押さえてもどします。



⚠注意

- ・走行中はパーキングブレーキの戻し忘れがないように注意してください。
- ・パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが過熱し、ブレーキ部品が早く磨耗したり、ブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

★坂道で駐車する場合は、輪止めをお忘れなく。
輪止めは、標準装備品ではありません。

寒冷地での取扱い

- 氷雪路では滑りやすいので、スリップに注意してください。スピードを落して走行しましょう。また、車間距離を多めに保ち、ブレーキは早めにかけることが重要です。なお、ブレーキを急にかけることは避け、かるく、数回に分けて小刻みにかけてください。雪道での急ハンドル、急ブレーキは禁物です。



- 寒冷時にはパーキングブレーキレバーを引いておくと、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。こんなときは、パーキングブレーキは使わずに、タイヤに市販の輪止めをしてください。



- フロントガラスの氷雪を除去する時は、ワイパーのゴム部がガラスに凍結していないか確認してください。

- 寒冷時にはウインドウォッシャーを使用すると、噴出した液が凍結して、前方視界が保てなくなるおそれがあり危険です。
必ず不凍効果のあるウォッシャー専用液を使用してください。

⚠️ 注意

・寒冷時はウォッシャー液を外気温と合わせた希釈割合にしてください。ウインドーガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



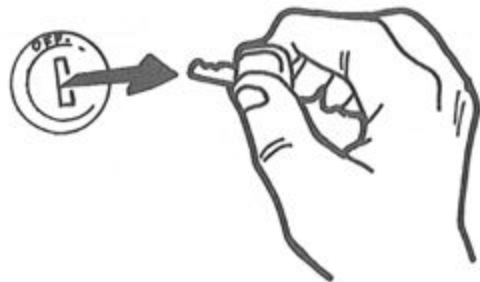
- 寒冷地では、雪道走行時等に、ブレーキ装置に水や氷が付着してブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキの湿りをかわかしてください。また、駐車後走行を開始する場合も同様にブレーキの効き具合の確認をしてください。

- 寒冷時は、アクセルペダル、ブレーキペダル等の可動部に付着した水分が凍結し、正常に作動しない場合があります。乗車時は十分確認してください。
- 氷雪路面では滑りやすいので、スリップに注意してください。



- 雨天時に、室内に入った雨水は水抜き穴から自然に水が車外へ排出される構造になっております。もしゴミ等により十分に排出出来ないときは、水抜き穴を清掃してください。
- 車両を離れるときは、大切なものは車内に残さないように注意してください。
- MC-1にはハンドルロック装置が装備されておられませんので、盗難対策には市販の盗難防止用グッズを使用してください。

- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。



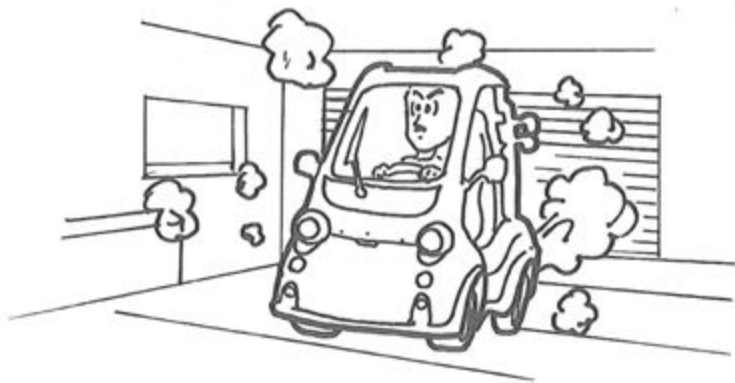
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、サイドブレーキを引いて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。

◆日常点検

これはあなた自身が行う日常点検です。

事故や故障を未然に防ぐために毎日お出かけ前にならず実施しましょう。

◆定期点検

車の定期健康診断にあたるものです。

お手もとの整備手帳にもとずいて、かならずお受けください。

- ・登録日より1か月目……………1か月点検
- ・登録日より6か月目……………6か月点検
- ・登録日より12か月目……………12か月点検
- ・登録日より24か月目……………24か月点検

●6、12、24か月点検は以後、繰返し実施してください。

●定期点検を受けるときは必ずメンテナンスノート（整備手帳）を提示してください。

次ページ以降では、MC-1のユーザーの皆さんが、点検・整備についての理解を深めていただけるよう、法律に定められた日常点検と6か月点検に準拠し、また、それらの簡単な整備について、その実施の方法を説明しています。記載しました事項をよくご理解いただき、あなたとMC-1による楽しい生活を送ってくださるよう、お願い申し上げます。

なお、点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

日常点検は、MC-1を運行する人が、1日1回、運行する前に行う点検です。

この点検は運転席にすわったり、MC-1の周りを回りながらMC-1の状態をみることによって容易にできるものです。お出かけ前にはかかさず日常点検を行いましょう。

日常点検の順序

日常点検を確実にを行うためには、一定の順序で行うことが効率的です。

以下に点検順序の一例を示します。



1.前日の運行において、異常が認められた箇所のチェック

2.運転席にすわって

- ブレーキペダルの踏みしろ、ブレーキのきき具合、片ぎき ㊦P28
- パーキングブレーキレバーの引きしろ ㊦P29
- ブレーキの液量 ㊦P29
- エンジンオイルの量 ㊦P15
- ワイパー/ウォッシャーの作動 ㊦P30
- バッテリー液の量 ㊦P31

3.車の回りをまわりながら

- 各ランプ類、方向指示器の点滅具合、レンズの汚れ、損傷 ㊦P32
- 反射器の汚れ、損傷 ㊦P32
- 登録番号標の汚れ、損傷 ㊦P32
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常な磨耗、及び金属片、石などの異物のささり、かみ込み ㊦P33

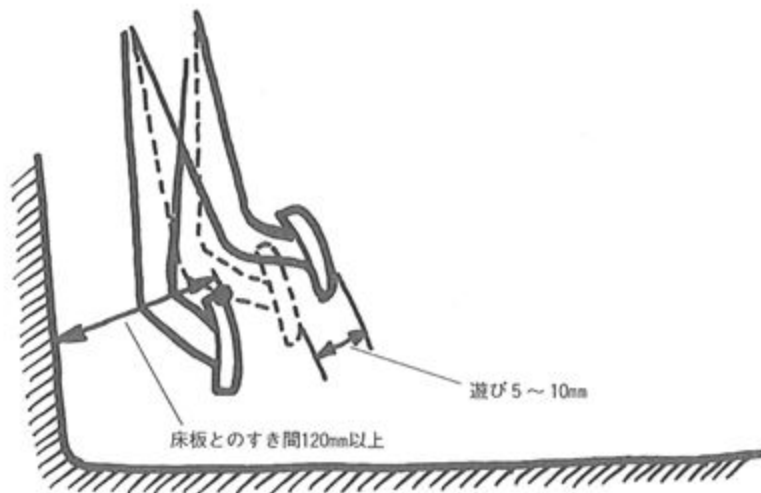
⚠注意

★点検はパーキングブレーキを確実に引きセレクトレバーをN位置にして行ってください。

日常点検の実施要領

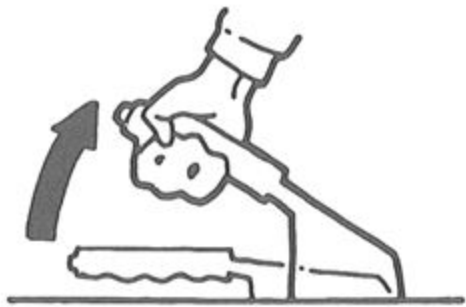
運転席にすわって

- ◆ブレーキペダルの踏みしろ、ブレーキのきき、片ぎき



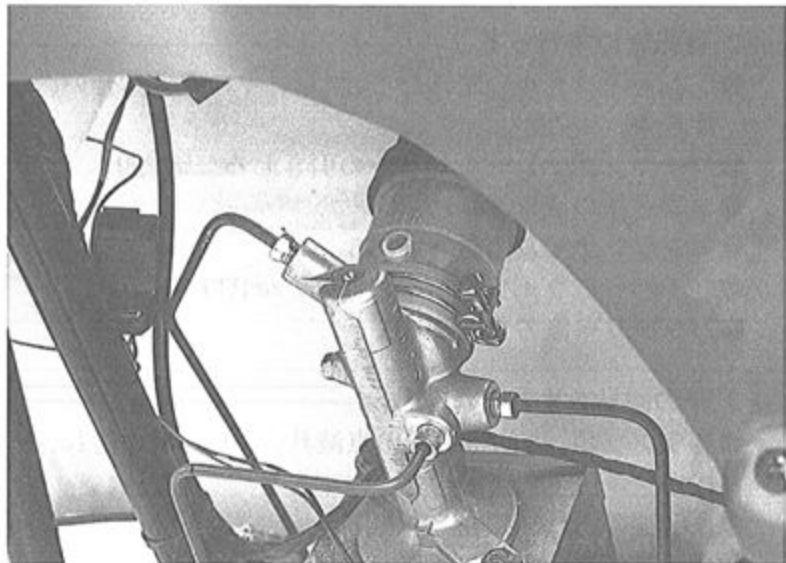
ブレーキペダルを踏み込んだときの床板とのすき間が適当か、踏み込んだときの踏みごたえが適当か点検します。床板とのすき間が少なくなっているときや、踏みごたえがやわらかく感じるときは、ブレーキ液の液漏れ、空気の混入によるブレーキのきき不良や片ぎきのおそれがあります。

◆パーキングブレーキレバーの引きしろ



パーキングブレーキレバーを引いたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないか点検します。(標準5ノッチ)

◆ブレーキの液量



インパネの下からのぞいてタンク内の液面がMIN線とMAX線の間にあるか点検してください。

MIN線より下にある場合は、MAX線まで「ブレーキフルード」を入れてください。

他のブレーキフルードとの混用はさけてください。

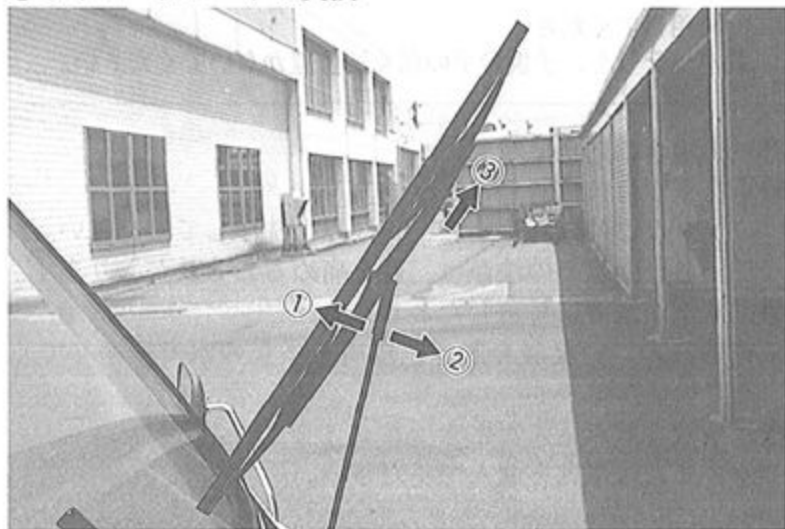
⚠注意

- ★ブレーキ液は2年に一度サービス工場で交換してください。
- ★粗悪品や他種のオイルを入れると危険です。
- ★ブレーキ液の減りが著しいときは、点検を受けてください。

◆ワイパー/ウォッシャーの点検

- ワイパー/ウォッシャーを作動させ正常に機能しているかを確認します。ゴムの劣化によりふき残しがある場合は以下のようにして、ワイパーブレードを交換してください。

●ワイパーブレードの交換



- ワイパアームを起し、①のレバーを押しながら②の方向へ押し上げながら③方向へ抜いてください。

⚠注意

★プレートを取り外したとき、アームを倒すとガラスに傷をつけることがあります。

- ウォッシャー液が不足している場合は、下記のようにして液を補給してください。

◆ウインドウォッシャー液の補給



水道水または、ウインドウォッシャー専用液をうすめて補給します。(タンク容量1.5ℓ) 冬期は、不凍効果のあるウォッシャー液をお使いください。

⚠注意

★フタにある穴が詰まると噴出不良をおこします。つまっている場合は、楊子などでつついてつまりを取ってください。

★石けん水などを入れるとノズルが詰まったり、塗装のしみなどの原因になります。

◆バッテリーの液量

バッテリーはシート前方下部の3か所のビスをゆるめ、ふたを取り外して点検します。

- 液量はUPPER LEVELとLOWER LEVELの間になければなりません。
- バッテリー液が不足している場合は、キャップを外し、各槽とも上限UPPERレベルまで蒸留水を補給します。
- 補給後はキャップを確実に締め付けます。



- ブリーザーホースは確実にボディの穴に通します。
- ブリーザーホースのねじれ、つまり等のチェックも必要です。

⚠警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目につ着したとき
コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。
加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚につ着したとき
電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
水、または牛乳を飲んでください。

応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

車の周りをまわりながら

- ◆各ランプ類、方向指示器の点滅具合、汚れ、損傷
- エンジンをかけて、前照灯、制動灯、尾灯、後退灯、番号灯などの灯火装置や方向指示器の点滅具合が不良でないかを点検します。
- レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

- ◆反射器の汚れ、損傷
反射器に汚れや損傷がないかを点検します。

- ◆登録番号標の汚れ、損傷
登録番号標に汚れや損傷がないか、また、番号などが明りょうに表示されているかを点検します。

◆タイヤの点検

タイヤの接地部のたわみ状態をみて、空気圧の適否を判断します。

●タイヤの空気圧



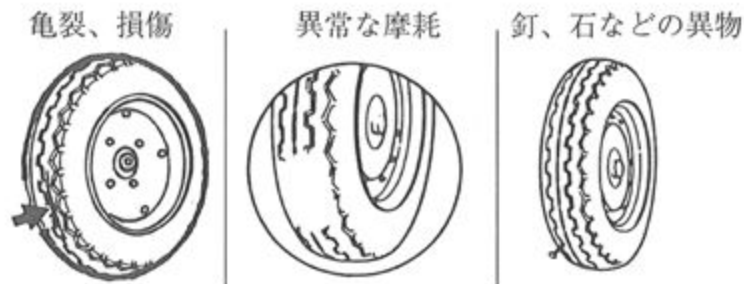
〈標準空気圧〉

タイヤ空気圧kg/cm ²		
タイヤサイズ	前 輪	後 輪
3.50-8-2-PR	1.2	1.6

⚠ 注意

- ★空気圧はタイヤが冷えているときに測ってください。
- ★空気圧は3.0kg/cm²以上入れないでください。

- 異常な磨耗や亀裂、損傷がないか点検しましょう。
- 釘、石、その他の異物のささり、かみ込みがないか点検しましょう。



●タイヤの溝の深さ

マークの位置がこのような
なったら交換



定期点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検です。
6か月点検、12か月点検、24か月点検の3種類があります。
ここでは6か月点検の標準的な方法について説明します。
点検の際に、特に注意を要する事項は、次のとおりです。

- ①安全な場所を選ぶ。
- ②静止状態での点検は平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
- ③適切な機械・工具や測定器具を使用する。
- ④自動車をリフト・アップする場合には、適切なジャッキなどを使用する。
- ⑤換気の悪い車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。

なお、ご自身で点検をした結果、異常が認められた場合は、すみやかに最寄りの販売店、又は代理店サービス工場での点検をおすすめします。

なお、点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

6か月点検の順序

1. 運転席にすわって

- ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間 ㊦P28
- バッテリーの液量 ㊦P31

2. 車の周りをまわりながら

- 各ランプ類、方向指示器の作用 ㊦P35
- タイヤの空気圧 ㊦P33
- ブレーキホース、ブレーキパイプの漏れ、損傷、取付状態 ㊦P36
- エンジンオイルの量 ㊦P15
- ファイナルギアボックス部の油漏れ ㊦P37
- 点火プラグの状態・点火時期 ㊦P37
- エアクリナーエレメントの状態 ㊦P38

3. 車を走行させて

- クラッチの作用 ㊦P39
- 排気の状態 ㊦P39

6 か月点検の実施要領

運転席にすわって

- ◆ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間
☞P28 ご参照ください
- ◆バッテリーの液量 ☞P31 ご参照ください

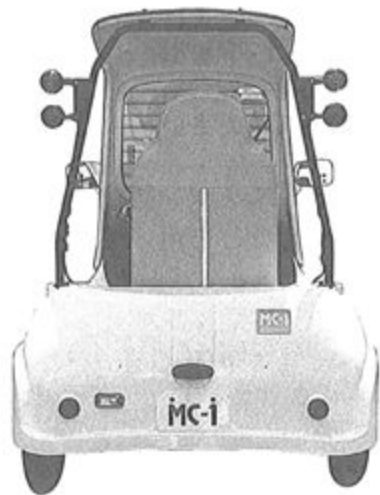
車の周りをまわりながら

- ◆各ランプ類、方向指示器の作用
- エンジンをかけ前照灯、制動灯、尾灯、後退灯、方向指示器などを作動させ、点灯、又は点滅具合が不良でないかを点検します。
- 制動灯などの点検は壁を利用するか、他の人にみてもらうなどして確認します。



- 前照灯の明るさや照射方向に異常がないかを点検します。
- 方向指示器を左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。

- 前照灯、制動灯、尾灯、方向指示器などのレンズに変色、損傷がないかを点検します。



◆タイヤの空気圧 ④P33 ご参照ください

- ◆ブレーキホース、ブレーキパイプの漏れ、損傷、取付状態
- ハンドルを左にいっぱい切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。
- ホースが車体などと接触していないかや、ホースの接続部から液漏れがないかも点検します。
- 右側についても同様に点検します。

◆ファイナルギアボックス部の油漏れ

トランスミッション周辺から油漏れがないかを目視などにより点検する。
オイルの交換、補給は、下記のように行ってください。



- 平坦地でフィラープラグを外し、ギアオイル量がフィラープラグ穴まであるかを点検します。
- 油面がフィラープラグ穴より低い場合は、フィラープラグ穴の下面までギアオイルATF（オートマチック用ミッションオイル）を補給してください。
- ギアオイルの交換は、4年又は20000km走行毎に行ってください。

オイル量約120cc

- 補給、交換後は、確実にフィラープラグ及びドレンプラグを取付けます。

⚠注意

- ★作業は平坦な場所で行ってください。
- ★オイルは、ATFを使用してください。
- ★補給するときは、オイルフィルターからごみなどが入らないようにしてください。
- ★オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。

◆点火プラグの状態・点火時期

- スパークプラグを取り外し、電極の焼け具合を点検します。

	N G K
標準プラグ	BR8HSA
くすぶるとき	BR6HS

- スパークプラグの焼け具合は使用条件によって異なりますので上表に基づいて選定し、ご使用ください。
- 混雑した市街地走行などでは、くすぶり気味になります。
- スパークプラグを交換する場合は、シート下部のメンテナンスハッチを取り外して行います。

⚠注意

- ★プラグキャップを外すときは、キャップ部分を持って抜きとってください。コードを引くと故障の原因になります。
- ★交換する場合は必ず指定のものをご使用ください。締めすぎに注意してください。

- 点火時期の点検は、エンジン暖機後、アイドリング状態でタイミングライトなどを用いて、点火時期が適正であるかを点検します。

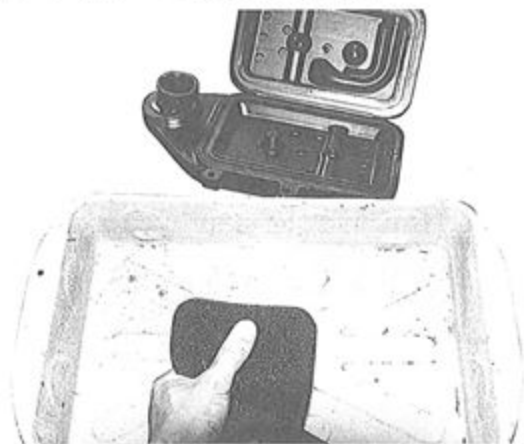
◆エアークリーナエレメントの状態

エレメントを取り外し、汚れ、詰まり、損傷がないかを目視により点検する。

洗浄、交換は下記のように行ってください。

◆エアークリーナの洗浄、交換

- エアークリーナの洗浄、交換をする場合は、シート下部のメンテナンスハッチを取り外し、エアークリーナを固定しているバンド、およびフレームとの固定ボルト1本を外して本体ごと取り外します。



- エアークリーナカバーのビスをはずし、エレメントを取り出します。
- 汚れがひどく目詰まりがある場合は洗浄してください。
- 損傷がある場合は交換してください。
- 取付けは取出しの逆の順序で行います。

●エアークリーナの洗浄



⚠注意

- 10W-30程度のオイルを使用
 - 洗浄油には灯油、軽油などを用い、揮発性の高いもの（ガソリンなど）は用いないでください。
-
- エアークリーナの洗浄の際、オイルはよくしぼってください。よくしぼらないとエンジン不調の原因になります。エアークリーナを指でさわって、少し油分がつく程度が目安になります。

車を走行させて

◆クラッチの作用

車を走行させてクラッチが正常に作用しているかを確認します。

◆排気の状態

エンジンを十分に暖機させた状態で、アイドリング時、加速時の排気ガスに異常な白煙、黒煙などがないかを目視により点検します。

◆バッテリー・ターミナル部の清掃

- ターミナル部に汚れや腐食があるときは清掃します。
なお、ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふくとよく落ちます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ターミナル部を取り外し、ワイヤブラシ、サンドペーパーで磨きます。
- 清掃、締付後は、ターミナル部にグリースなどを薄く塗っておきます。



⚠注意

- ★バッテリーの整備を行うときは、必ずエンジンを停止させてください。
- ★作業中、バッテリーの⊕⊖端子が工具などによりショートすると危険ですから注意してください。
- ★清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように注液口のキャップを締めておいてください。
- ★ターミナルからバッテリー端子を取り外す場合は、アース側の端子から外してください。また、取り付ける場合は、アース側の端子を最後に取り付けてください。
- ★ターミナル部に緩みが生じないよう確実に締め付けてください。

- ボディのツヤを保持する為に半年に1度程度必ずWAXかけを行ってください。

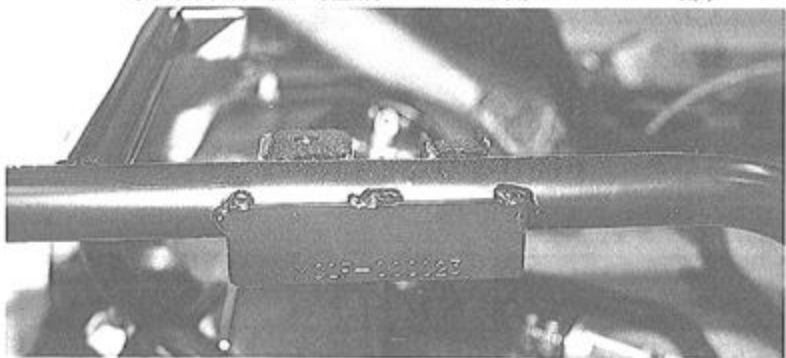


- ボディ面にツヤがなくなった場合は、コンパウンド・ワックス等で磨くとツヤがもどります。ただし、強く磨きすぎると、塗膜が薄くなったり、色むらが生じることもありますので注意してください。

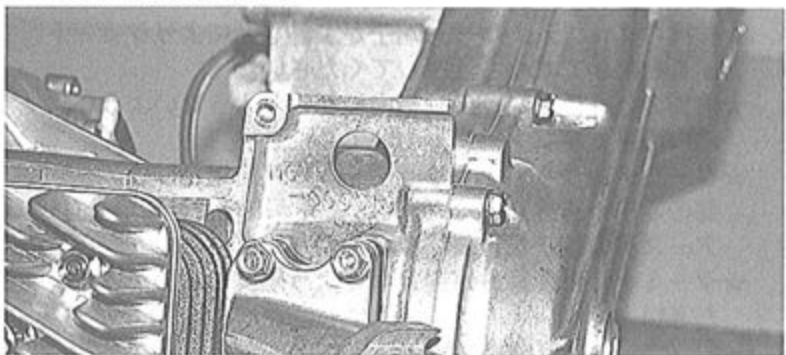
- 洗車時、マフラに水を入れしないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 地球の環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来お車を廃車される場合も同様です。これらのものを廃却する場合は、お買いあげの販売店にご相談ください。

- フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置（左前タイヤ上側のフレーム部）



エンジン号機打刻位置



メンテナンスノート

◆MC-1の保障について

ミツオカではお買い上げいただいた製品について、「ミツオカ保障制度」に基づいた品質の保証をいたしております。別冊“メンテナンスノート”の巻頭に保証書が貼付してあります。

この保証書に保証内容が詳しく記載してありますのでご参照ください。

◆メンテナンスノート

メンテナンスノートは定期点検の実施を記録するもので、運転免許証、届出済証、保険証書などと一緒に走行中は常に携帯していなければならないものですから大切に取り扱いってください。

◆愛車の点検・修理の場合は

点検の実施及び簡単な整備はMC-1構造、装置によって基礎的な技術知識を必要とするものがあります。

あなたご自身で作業及び良否の判断ができない点検、調整、修理の場合にはお買い上げ販売店又は弊社代理店にお申し付けください。なお、この場合には、症状をはっきりお伝えください。

⚠注意

万一汚したり紛失した場合には最寄りの光岡自動車販売店、又は代理店でお求めください。

サービスデータ

項 目		デ ー タ
寸法・重量	車体寸法(長×幅×高)	1755×1080×1455mm
	ホイールベース	1110mm
	最低地上高	95mm
	車両重量	160kg
	乗車定員	1人
性能	制動停止距離	9.8m(初速40km/h)
	最小回転半径	2.3m
原動機	総排気量	49cc
	内径×行程	39.0×41.4mm
	潤滑方式	分離潤滑式
動力伝達・走行装置	クラッチ形式	乾式多板シュー式
	変速機形式	Vベルト無段変速式
	変速機操作方式	自動遠心式
	トリーイン	1mm
	キャンバ	0°00′
	キャスタ	8°00′
	キングピン	10°00′
	タイヤサイズ(前)	3.50-8 46J
	タイヤサイズ(後)	3.50-8 46J
電気	点火方式	CDI式
	バッテリー電圧・容量	12V・9Ah
その他	燃料タンク容量	7.0ℓ
	エンジンオイル容量	1.2ℓ
	スパークプラグ	(NGK)BR8HSA
	タイヤ磨耗限度	0.8(1.6)mm

バルブ(電球)の一覧

前	照	灯	18/18W
番	号	灯	10W
制	動	灯	18W
尾		灯	5W
後	退	灯	3.4W
ターンシグナルランプ			21W
ハイビームインジケータランプ			3.4W
オイル警告灯			3.4W
ターンシグナルパイロットランプ			3.4W
メータ照明ランプ			2W

⚠注意

★指定ワット数以外のバルブ(電球)は使用しないでください。

× 毛

メ 毛

ちよことろろ、しんがら
り

下駄車

㊄



MITSUOKA·MICRO·CAR

- ★シートベルトをしめて安全運転。
- ★自賠責保険をお忘れなく。

Presented by **MITSUOKA**

株式会社 光岡自動車

〒939-2732 富山県婦負郡婦中町横野100 ☎0764-66-9300